

令和3年度 土木計画学幹事会 議事録

作成者：田中皓介

日時：令和3年4月5日（月） 15:00～16:40

場所：土木学会 A 会議室

■ 出席者(名前の前の※はリモート参加)

委員長：兵藤哲朗（東京海洋大）

副委員長：※白水靖郎（中央復建）、※高橋清（北見工業大）

幹事長：藤井聡（京都大）

委員兼幹事：伊地知恭右（北海道開発技術センター）、岡英紀（計量計画研究所）、楽奕平（芝浦工業大）、川崎智也（東京大）、※小池淳司（神戸大）、※鈴木春菜（山口大）、田中皓介（東京理科大）、※松田曜子（長岡技科大）、※松本浩和（地域未来研）、※吉城秀治（福岡大）

欠席：泊尚志（東北工大）

■ 議事次第

1. 開会 委員長挨拶
2. 前回委員会 議事録の確認 資料 2
3. 2021年度 春大会・秋大会に向けて 資料 3
4. 全国大会 計画学幹事会セッションについて（小池幹事） 資料 4
5. 「コロナセミナー」→「土木学会論文集D3 特別企画」 資料 5
6. 災害担当（コロナ調査）報告（田中幹事） 資料 6
7. 令和2年度予算執行状況について（田中幹事） 資料 7
8. 「土木学会論文集 D4 分野設置」についての検討状況報告 資料 8
9. 研究小委員会新規申請について（松本幹事） 資料 9
10. その他

■ 議事録

1. 開会 委員長挨拶

兵藤委員長より挨拶がなされた。

2. 前回委員会 議事録の確認 資料 2

藤井幹事長より、【資料 2】について、前回の 2020 年 11 月の委員会の議事録が確認された。

3. 2021 年度 春大会・秋大会に向けて 資料 3

藤井幹事長より 2021 年度の春大会の準備状況について説明があり、新型コロナウイルスの感染状況が不透明なため当初よりオンラインでの開催とすること、ポスター発表では他学会でも実績のある SpatialChat の利用が検討されていることなどが報告された。

秋大会については、2021 年 12 月 3 日(金)～5 日(日)に、オンライン形式にて開催が予定されていることが報告された。

4. 全国大会 計画学幹事会セッションについて (小池幹事) 資料 4

小池幹事より、2020 年度同様に一般投稿を集約した幹事会セッションを土木学会全国大会で実施する予定であることが報告された。2021 年度は土木学会論文集 D4 部門の立ち上げに合わせて、実践および教養をキーワードとして、土木計画学の新たな挑戦をテーマとする論文を募集した。

研究討論会については隔年開催となっており 2021 年度の開催はない旨、報告された。

5. 「コロナセミナー」→「土木学会論文集 D 3 特別企画」 資料 5

藤井幹事長より、2020 年 8 月に実施した COVID-19 に関する土木計画学研究発表セミナーの内容が報告された。また、土木学会論文集 D3 分冊 COVID-19 特別企画についても説明がなされた。関連して、2021 年 3 月に行われた JCOMM セミナーの実施や、速報性を重視して実践政策学でも論文募集が行われている旨、報告があった。

兵藤委員長より、春大会や秋大会でも一定数の発表はあるだろうが、一般の発表の中に埋もれないために、計画学研究委員会としての第 2 弾セミナーを実施してはどうかと提案がなされ、今後検討していくこととなった。

6. 災害担当(コロナ調査)報告 (松田幹事・田中幹事) 資料 6

田中幹事より、COVID-19 の調査状況について説明がなされ、サーベイリサーチセンターの協力のもと、2020 年度内に 3 回のパネル調査が実施され、主要な結果として、リスク認知が現実と乖離していることなどが報告された。

伊地知幹事からは小規模な地方紙への情報提供も大事ではないかとの意見が出され、それを受け、藤井幹事長より、プレスリリース体制等を確認して積極的に情報発信していく打ち出すべきことが指摘された。さらに、ワクチン接種状況などの社会状況の変化も踏まえて、継続的なアンケート実施が提案され、今後検討していくこととなった。

松田幹事より、発災後の避難行動調査の標準化について報告がなされた。減災計画研究小委員会が中心となって進められているプロジェクトであり、2018 年以降の複数の災害で利用実績があり、今後も引き続き利用が検討されている。こうした小委員会の動きと、災害担当幹事が随時情報共有していくよう依頼された。

7. 令和2年度予算執行状況について (田中幹事) 資料7

田中幹事より、2020年度の予算について説明があり、旅費等の支出が少なくなった分、次年度への繰り越しが160万円あったこと、および、コロナ調査で約230万円の支出があったことが報告され、90万円程度が2021年度に繰り越されることが報告、承認された。

兵藤委員長より、コロナ調査予算について1回あたり70万円程度である(2020年度は3回のパネル調査で約230万円)ことが確認され、2021年度の調査実施を検討していくこととなった。

8. 「土木学会論文集 D4 分野設置」についての検討状況報告 資料8

藤井幹事長より、D4分野の検討状況について報告がなされた。全体の流れとして、ステップ1: 計画学研究委員会内部にD4編集準備小委員会を設置し、ステップ2: D3の「特別企画(土木計画学: 政策と実践)」をD4準備として発刊(2021年度春大会では発刊、2021年度秋大会については検討中)、ステップ3: 2023年1月よりD4分野を設置、という流れであることが報告された。なお、2021年3月に実施した投稿予定アンケートによれば、45人が投稿を予定しており、60~80本(うち報告14本)程度の投稿が見込まれていることが報告された。

論文内容について説明された。D3分冊から「河川及び流域」「気候変動」「海岸・海洋」「エリアマネジメント」「経済財政金融」などのテーマが追加さ、「貢献」を企図した内容であることが重視され、査読は土木学会論文集の査読手引きに基本的には従いつつも、解釈や重みづけの余地があることが報告された。詳細な手続きについては、準備小委員会により進めていくことが承認された。

9. 研究小委員会新規申請について (松本幹事) 資料9

松本幹事より、「革新的技術導入における合意形成研究小委員会」からの申請あったことが報告され、幹事会としては承認することとなった。

10. その他

・土木学会パンデミック特別検討会について

小池幹事より、家田会長が主導する土木学会パンデミック特別検討会について説明があり、WG4(暮らしとモビリティ)とWG7(国土とインフラ)が土木計画学研究委員会の関連部門として含まれており、4月半ばまでに最終提言書を取りまとめる予定である。神田前幹事(WG4)および小池幹事(WG7)がとりまとめ、提出前に幹事会メンバーに確認・意見を求めることとなった。

・研究小委員会

松本幹事より、研究小委員会の規則に則っていない(HPがない、委員を公募していないなど)小委員会の存在の懸念が報告され、今後は規則に則り運営していくよう各小委員会に周知していくこととなった。

・2022年度春大会について

兵藤委員長より、2022年度の春大会の開催地の検討の必要性が指摘され、検討していくこととなった。

以上